合會本部に來援を求めたのである

この突然の罷業に狼狽した會社側は二十五日朝首腦部會議を開き勞務行政上要求は斷乎排撃することを申合せ勞働主任をして爭議團側と會見せしめ團体的交渉に因らされば善處する旨通告したるも拒絶せられた。

會社側の申込を拒絶したる直後全總九州聯合會より主事代理元阪順次が白米二十俵を携へて來着したる爲爭議團は益々氣勢を揚げ同日午後四時要求書を提出したるも突返され遂に提出し得ず本部に引揚げ協議を續け翌二十六日爭議團員家族救援と稱し白米の中にアジビラを入れて分配する外凡ゆる方法を以て宣傳したる結果同日夜より坑内夫九名の團員獲得に成功した。

此の間會社側は筑豐石炭鑛業互助會關係の各炭坑より勞務係

數十名の援助を受け從業員の爭議參加を防ぐべく警戒を嚴重にしたる爲二十五日以來數回に亘る暴行事件の發生を見且二十七日午後五時爭議團金員に對して解雇の通告をなしたる等双方の態度益々尖鋭化するに至つたのである。

爭議團側に於ては二十八日應援勞働組合最高幹部の來援を求め解雇並暴行事件の報告をしたる處指導組合幹部宮崎太郎、元阪順次等は會社がかかる態度に出ずるに於ては最早大衆行動も已むなしとて愈然對立激化したるを以て所轄飯塚警察署に在りては双方に警告を發し嚴重警戒をなすと共に種々斡旋に努めたる處會社側も社會的信用を憂慮し互助會よりの激勵援助を拒み幾分態度軟化したる爲積極的調停に乗り出し二十九日午後二時双方代表を會見せしめ徹宵協議したる結果漸く妥協點を見出したる爲再度三十日午後七時より折衝を續けたる